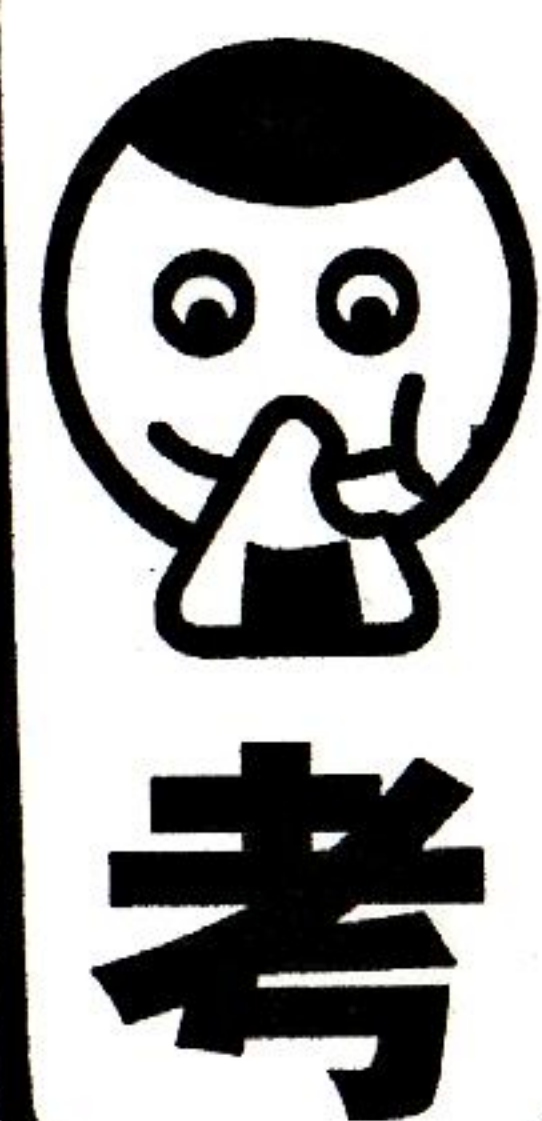


子どものお弁当



上

幼稚園に子どもたちが持参する、お母さんやお父さんの手作り弁当。ふたを開けると、ご飯でかたどった大好きなキャラクターが登場することもある。アンパンマン、ウルトラマン、キティちゃん……。中には、図画工作のようにも見える弁当も。「子どもを喜ばせたい」という親の思いだ。ただ、「子どもの健康を無視している」と、行き過ぎを懸念する声も出ている。(柏木 智帆)

「『モンスターボール』だった」「シンケンジャー」だったこともあるよ」。湘南地域の幼稚園に通う男児(6)は、ご飯でアニメのキャラクターをかたどった「キャラクター弁当」(キャラクター)をうれしそうに自慢した。

笑ったりウインクしたりしている3匹のクマをかたどったご飯を食べていた女児(5)。クマは好き？ 女児は「うーん」と首をかしげて言った。「おうちののりたま(ふりかけ)ご飯と塩ご飯が好き」

2年前までは次女(6)のためにインターネットのブログを見ながらキャラクターを作っていたという母親(38)は、「子どもは好きなキャラクターをリクエストして喜んでくれた。わたしも作

声の懸念 無視健康

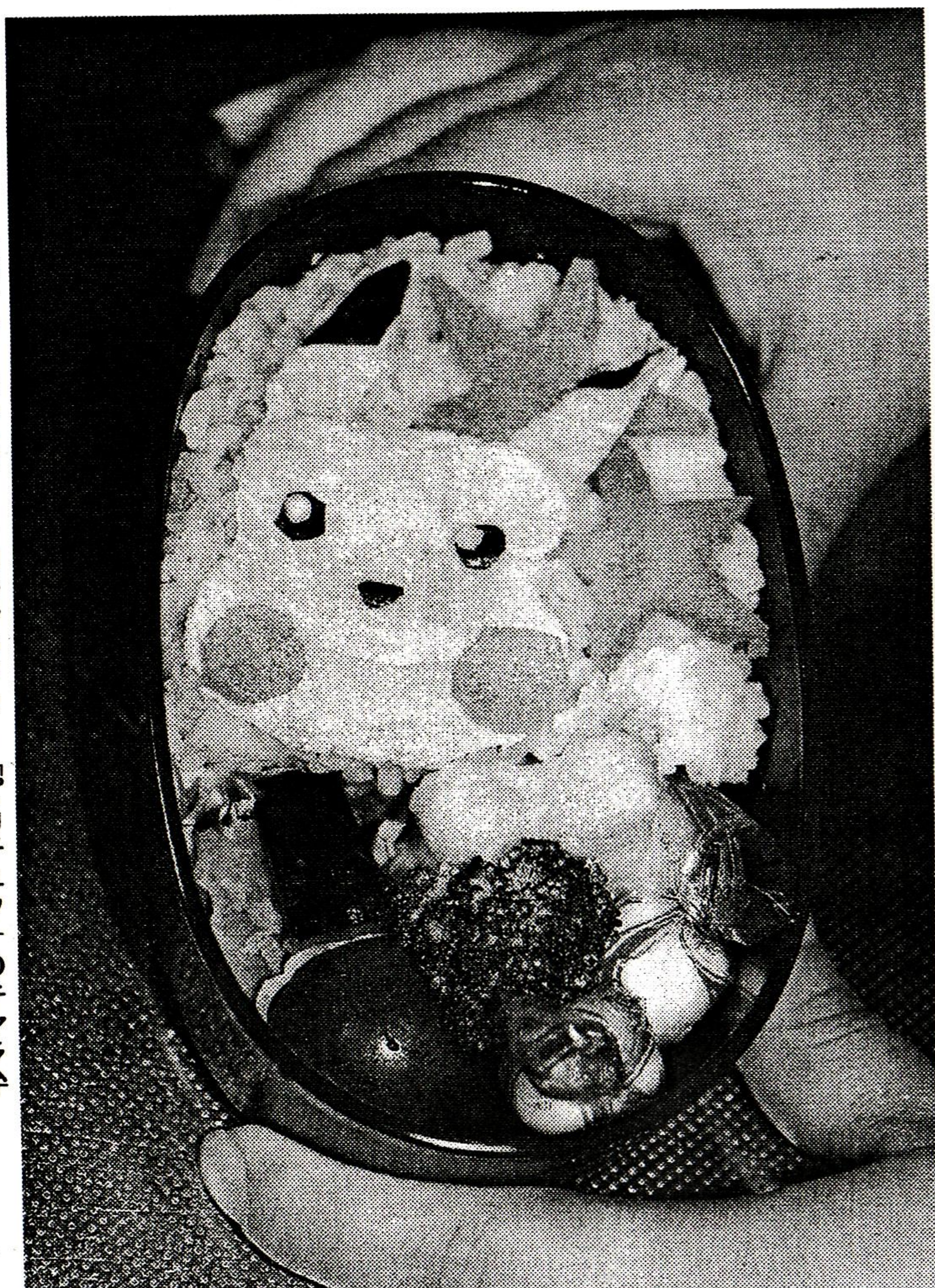
「っていて楽しかった」と言う。いまは中2の長女の部活の朝練習で時間に余裕がなくなり、おにぎりを包むラップに絵を描くだけにして手間を省いている。

6歳の男児の母親(28)は「2年前にキャラクターがはやってたとき、ほかの子どもがキャラクターだったらかわいそうだと思って作っていた」。だが、冬を迎えてからはキャラクターをやめた。キャラクターを作る際はチーズを使うことが多く、幼稚園で弁当を温める暖飯器に入れると、チーズが溶けてしまったからだ。

材料や時間、手間などを理由にやめてしまった親が多いなか、いまでも毎日キャラクターを作っている母親(48)もいる。「うちの子どもは食べるのが好きじゃないので、家ではわたしが食べさせないと食べてくれない。お弁当はわたしが見ていないところで食べるので心配で……」。せめて弁当を開けるときの楽しみが得られるように、と工夫を凝らす。息子(5)はおかずは残しても、キャラクターをかたどったご飯はだいたい食べてくると言う。

に対して否定的な見方もある。管理栄養士の幕内秀夫さんは、「キャラクターは、わがママ弁当」。子どもの健康を無視した、見えっ張りわがまま弁当だ」と言う。さらに「キャラクターには、煮物やおひたしは付かない。揚げ物やいため物、添加物が多い、油・添加物弁当々になってしまふ」「食品を手でこねくり回すので、食中毒の心配が高くなる」と指摘する。

行き過ぎなキャラクター弁



「ポケットモンスター」のキャラクター「ピカチュウ」のキャラクター